

富士フィルムグループの企業理念

わたしたちは、先進・独自の技術をもって、最高品質の商品やサービスを提供する事により、社会の文化・科学・技術・産業の発展、健康増進、環境保持に貢献し、人々のクオリティ オブ ライフのさらなる向上に寄与します。

当社の前身である富士写真フィルム株式会社は、1934年に写真フィルムの国産化を目標に掲げて創業しました。約10年に及ぶ苦闘の末、フィルムの一貫生産を成し遂げ、写真フィルム、映画フィルム、レントゲンフィルムを次々に国産化し、総合写真感光材料メーカーとしての地位を築きました。1940年代には光学ガラス、レンズ、光学機器にも進出、戦後は医療分野(X線診断)、印刷分野、電子写真、磁気材料などに事業を多角化しました。さらに1962年には、英国Rank Xerox Limited(現 Xerox Limited)と合併で富士ゼロックスを設立しました。

1950年代後半からは積極的に海外販売拠点を開設、1980年代には「世界の富士フィルム」を目指して海外生産拠点を増やすなどさらにグローバル化を加速していきました。その一方で、写真・医療・印刷事業におけるデジタル化にいち早く取り組み、市場をリードしていきました。

2000年代に入り、カメラのデジタル化が一気に加速し、写真フィルムの需要が急減したため、事業構造を大きく転換する経営改革に邁進しました。2006年10月には、富士フィルムホールディングスが2大事業会社の富士フィルム・富士ゼロックスを傘下に束ねる、持株会社体制に移行。そして、イメージング分野の構造改革と重点事業分野の成長戦略の推進で、2008年3月期には売上高・営業利益ともに過去最高となるV字回復を達成しました。しかしながら、その矢先、2008年秋より深刻化した世界同時不況の影響により、2009年3月期は業績が急激に悪化しました。

富士フィルムグループは現在、世界同時不況に対応した、構造改革の断行と成長戦略の再構築により、再び成長を加速するための新たなスタートラインに立っています。

目次

1 富士フィルムグループのプロフィール

2 事業セグメント情報

4 財務ハイライト

6 CEO メッセージ・インタビュー

2011年3月期は、再び富士フィルムグループを成長軌道に乗せるための重要な1年と位置付け、成長が期待される事業分野・地域、特に新興国市場に対し、経営資源を集中投入します。

16 営業概況

富士フィルムグループの営業概況とトピックスを、3つのセグメント別にご紹介しています。

16 イメージングソリューション

20 インフォメーションソリューション

28 ドキュメントソリューション

32 富士フィルムグループの技術資産

36 コーポレート・ガバナンス

36 コーポレート・ガバナンス

39 役員紹介

40 内部統制

42 CSR

44 財務セクション

56 会社概要